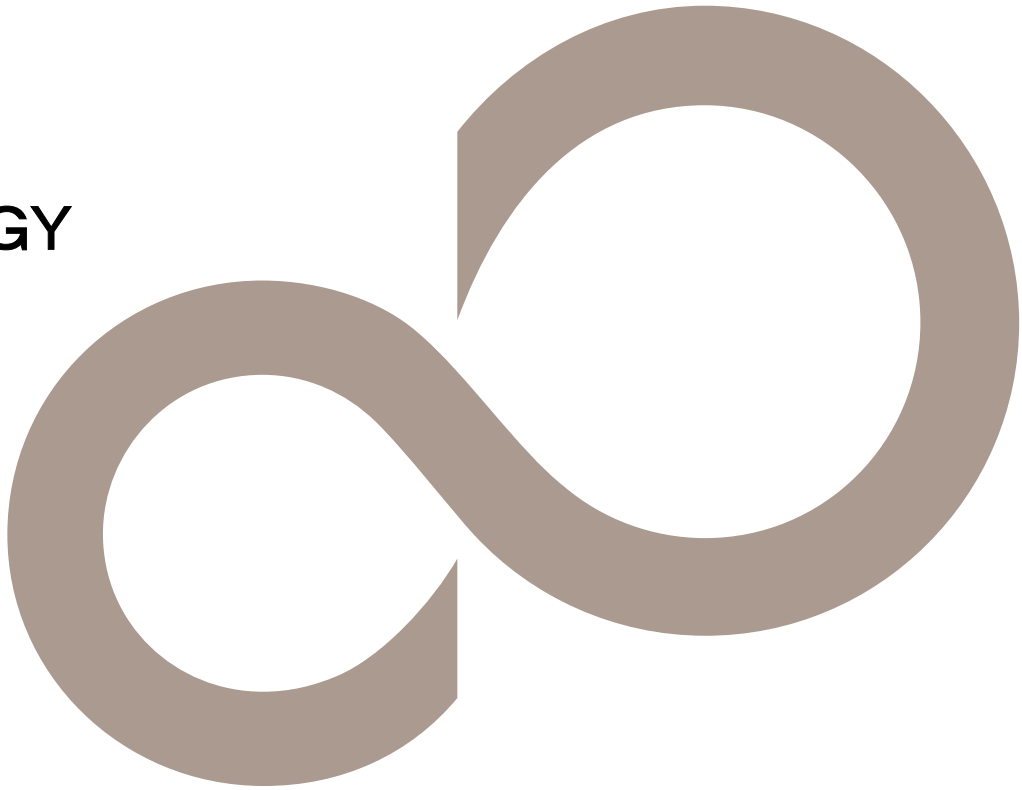
PRIMERGY



取扱説明書

ＣＲＴ／ＫＢ切替器（４ｃｈ）［ＰＧ－ＳＢ１０４］
ＣＲＴ／ＫＢ切替器（８ｃｈ）［ＰＧ－ＳＢ１０５］

FUJITSU

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスＢ情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用等の一般的用途を想定して設計･製造されているものであり、原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療用機器、兵器システムにおけるミサイル発射制御などの、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命･身体に対する重大な危険性を伴う用途(以下｢ハイセイフティ用途｣という)に使用されるよう設計･製造されたものではございません。お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。ハイセイフティ用途に使用される場合は、弊社の担当営業までご相談ください。

その他の製品名等の固有名詞は、各社の登録商標または商標です。
All Rights Reserved, Copyright ⓒ 富士通株式会社 2003

目　　次

はじめに 1

表記規則 1

梱包品の確認 2

重要なお知らせ 2

安全性 2

環境への配慮のお知らせ 3

特　長 4

各部の名称と働き 5

操作パネル面 5
コネクタ面 6
装置上面（8ch のみ） 6
ディップスイッチ設定 7
Low Power の検出 7

設置 8

外付設置 8
ラック搭載 9

ケーブルの接続と取り外し 11

ケーブルの接続 11
ケーブルの取り外し 12

操作方法 13

プラグアンドプレイデータの取得 13
サーバの選択 14

仕　様 20

トラブルシューティング 21

はじめに

このたびは、ＰＲＩＭＥＲＧＹ（プライマジー）用ＣＲＴ／ＫＢ切替器（４ｃｈ）またはＣＲＴ／ＫＢ切替器（８ｃｈ）をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
本製品をお使いになると、１組のモニタ、キーボード、マウスで複数台のサーバを操作できるため、大幅な省スペース化が実現できます。また、本製品をカスケード接続することにより、ＣＲＴ／ＫＢ切替器（８ｃｈ）９台で最大６４台のサーバを操作できます。

表記規則

この説明書で使用している記号と文字の意味は次のとおりです。

注意　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が障害を負う可能性があること、および物的損害（本製品またはサーバの損害など）が発生する可能性があることを示しています。

Point　この記号のあとの文書は補足説明、注釈、ヒントです。

- 文頭に数字（１，など）がある場合は、順序にしたがっておこなう必要がある操作を示しています。
- 参照する章のタイトルと用語を強調する場合は、カギ括弧（「」）で囲んでいます。
- 以降ＣＲＴ／ＫＢ切替器または本装置と記載部分は４ｃｈ／８ｃｈ共通の記述を表します。
- ＜＞で囲まれた文字はキーボード上のキーを示します。例＜ＥＳＣ＞はＥＳＣキーを＜ＥＮＴＥＲ＞はＥＮＴＥＲキーを示します。

梱包品の確認

次のものが、梱包されていることをお確かめください。

- ＣＲＴ／ＫＢ切替器(4ch)または(8ch)　× １
- 取扱説明書（本書）　× １
- 保証書　× １
  （保証書に必要な詳細がすべて記入されていることをお確かめください。）
- ゴム足　× ４
- ＡＣアダプタ（4ch のみ）　× １
- 電源コード［2m］（8ch のみ）　× １
- ラック取り付け用ネジ（8ch のみ）　× ６

万一、不備な点がございましたら、おそれいりますが、お買い求めの販売店または弊社担当保守員までお申し付けください。

重要なお知らせ

この章には、ＣＲＴ／ＫＢ切替器で作業する際に注意しなければならない、安全性に関する情報を記載しています。よくお読みのうえ、正しくご使用ください。

安全性

注意　**安全上の注意**

本装置は、事務オフィス環境で使用する電子事務用機器などの情報処理装置に関する安全規格に準拠しています。ご不明な点があれば、お買い求めの販売店または担当保守員に連絡してください。

- 本装置を運搬する際は、衝撃や振動を避けるため、購入時の箱か同等の箱を使用してください。
- 本装置の取り付け中と使用前に、「技術仕様」の環境条件についての記事と「取り付け」の記事をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。
- 本装置を寒冷な環境から設置場所に移動すると、結露を生じることがあります。装置が完全に乾燥し、設置場所とほぼ同じ温度になってから使用してください。
- 損傷しないようにすべてのケーブルを配置してください。ケーブルを接続または取り外すときは、「ケーブルの接続と取り外し」の該当部分を参照してください。
- 雷雨のときは、データケーブルを接続したり取り外したりしないでください。
- 本装置の内部に異物（ネックレスやクリップなど）や液体が入らないようにしてください。

- 緊急の場合（筐体、部品、またはケーブルの損傷、液体や異物の侵入など）は、ただちに装置からすべてのケーブルをはずして、お買い求めの販売店または担当保守員に連絡してください。
- 本装置を修理できるのは資格のある技術者だけです。資格のないユーザが本装置を開き、誤った修理や改造をおこなうと、感電や火災の原因になることがあります。
- ケーブルは強く引っ張らず、必ずコネクタ部を持って抜いてください。
- 濡れた手での使用またはコネクタの抜き差しはしないでください。
- 本装置の上には、コップなど不要な物をおかないでください。
- 警告マーク（稲妻マークなど）が付いている部品（電源装置など）の分解、取り 外し、交換は、資格のある人以外はできません。
- 周辺機器用のデータケーブルは、干渉を防ぐために適切な絶縁処理が必要となりますので、専用のケーブルをご使用ください。
- 本書は本装置とともに大切に保管してください。本装置を第三者に譲渡する場合は、本書も譲渡してください。
- 本装置同士（4ch と 8ch の混在可能）のカスケード接続は可能です。従来機種（GP5-SB101/SB102,PG-SB103）は仕様が異なるため、従来機種とのカスケード接続できません。本装置からサーバまでの接続ケーブル長は、合計 7m 以下にする必要があります。カスケード接続時には本装置間を 1.8mCRT/KB ケーブル(PG-CBLDP02)をご使用ください。

環境への配慮のお知らせ

本製品の所有者が事業主の場合には、本製品を廃棄する際にマニフェスト伝票（廃棄物管理表）の発行が義務付けられております。弊社では、富士通リサイクルシステムを構築し全国的に運用しておりますので、廃棄の際には次の URL にお問合わせ願います。

お問合わせ／お申し込み先：富士通リサイクルシステム
(http://eco.fujitsu.com/recycle/)

なお、法人・企業以外のお客様は、お申し込みできません。
本製品の構成部材（プリント板、シャーシ）には、微量の重金属（鉛、クロム）や化学物質（アンチモン）が使用されています。使用済みの製品を廃棄される場合は、上記のようにリサイクルにご協力ください。
なお、本製品の所有者が個人の場合にはマニフェスト伝票の発行義務はありません。

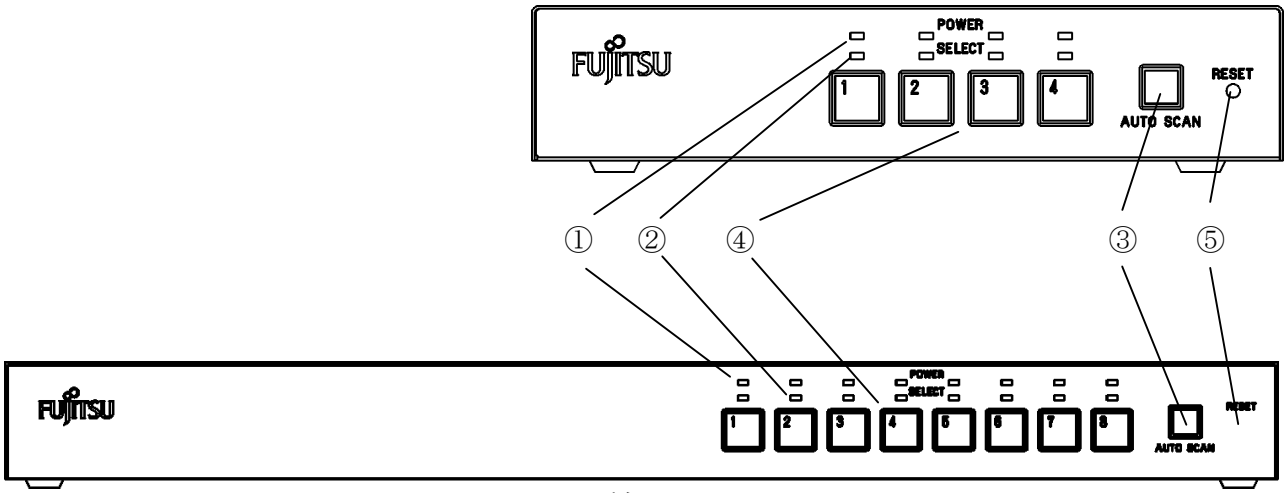
この装置は、金属、プラスチック部品を使用しています。廃棄するときは、各自治体の指示にしたがってください。

特　長

●複数台の IA サーバを接続することで、今まで各サーバに接続していた複数台のコンソール（モニタ、キーボード、マウス）を 1 組のコンソールで共有することができ、大幅な省スペースが実現できます。
●CRT/KB 切替器（4ch）1 台で最大 4 台、CRT/KB 切替器（8ch）1 台で最大 8 台のサーバが選択できます。
●本装置をカスケード接続する事で、接続できる IA サーバ数を拡張できます。
　例：CRT/KB 切替器（8ch）9 台で、64 台のサーバが接続可能です。
●CRT/KB 切替器（8ch）をラック搭載する場合には、操作パネル部と本体（コネクタ側）を分離することができますので、狭いラック内でのサーバへの接続作業がよりスムーズに行えます。
●電源電圧監視回路を内蔵していますので、電源コードが外れたり内部電源ヒューズが故障したりしたときに異常をお知らせします。
●モニタの解像度は、1600x1200、リフレッシュレート 75Hz までサポートします。
●サーバの選択はセレクトスイッチまたは、キーボード（ホットキーモード）で簡単にできます。
●ホットキーモードでは OSD 表示により、画面を見ながら切り替えができます。
●OSD表示はキーボードによるホットキー入力で行えます。ホットキーは3種類のキー入力(＜Ctrl＞+＜Alt＞+＜Shift＞、＜Ctrl＞ x2、＜Scroll Lock＞ x2)から選択して設定できます。
●オートスキャンはスイッチまたは、キーボードで行えます。
●オートスキャンでは起動しているサーバを自動的に切り替えますので、各サーバの状態が一定周期で監視できます。　また切り替え周期は 6 段階に設定できます。

各部の名称と働き

操作パネル面



前面図

①［ POWER ］LED（緑色）
サーバの電源が ON の時に点灯します。電源コードや AC アダプタが外れたり、内部電源ヒューズが断線したりした時に点滅します。

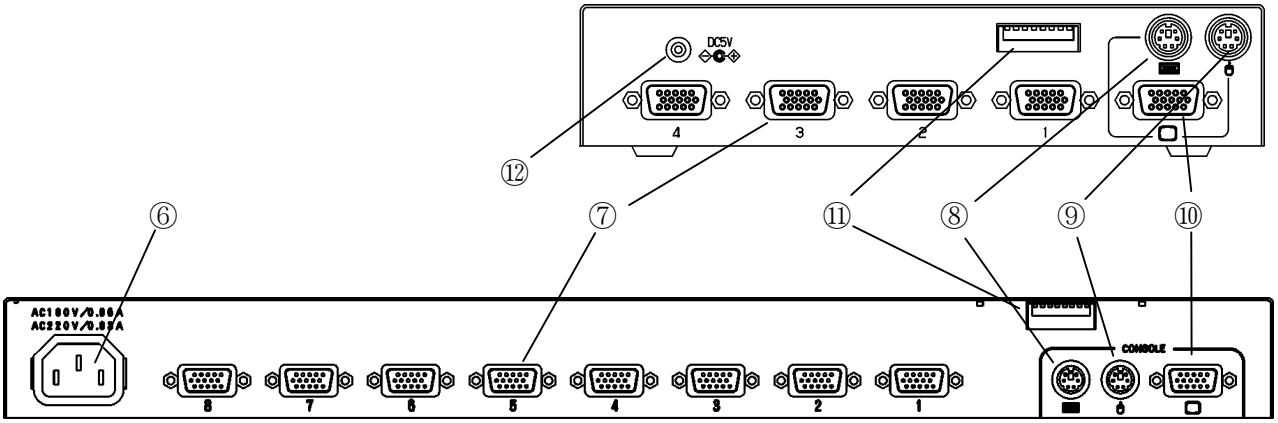
②［ SELECT ］LED（緑色）
選択されたポートが点灯します。ホットキーモードでは早い点滅（1 秒間に約 10 回）となります。

③［ AUTO SCAN ］スイッチ
押下するとサーバの電源が ON になっているポートの画面を順次自動的に切り替えることができます。オートスキャン中は、［SELECT］LED が遅い点滅（１秒間に約２回）となり、サーバのキー入力、マウス操作はできません。再度押しますと表示している画面のポートを選択し、オートスキャンが終了します。

④［ SELECT ］スイッチ
サーバを選択する時に押します。サーバの電源が OFF の状態のポートも選択できます。

⑤［ RESET ］スイッチ
通常は使用しません。万が一、サーバの選択ができない場合やキーボード、マウスの入力異常が発生した場合にボールペンの先などで軽く押してください。
［RESET］スイッチを押下すると本装置は初期状態に戻りますので、サーバを再起動する必要はありません。

コネクタ面



本装置後面図

⑥ インレット [8ch のみ]
電源ケーブル（AC100V）を接続します。

⑦ サーバ接続用ポート
本装置の各ポートとサーバのキーボード／マウス／ディスプレイ コネクタを専用ケーブルで接続します。

⑧ キーボード コネクタ
PS/2 のキーボードを接続します。

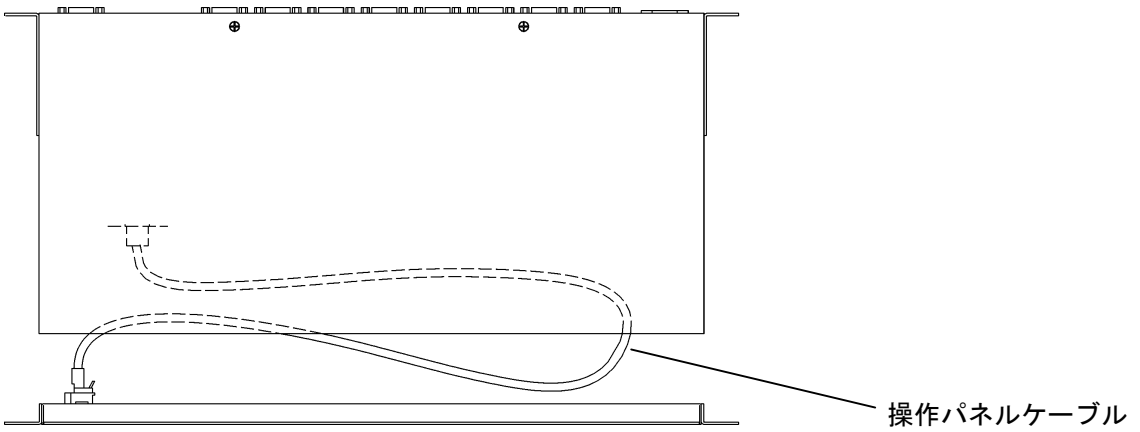
⑨ マウス コネクタ
PS/2 のマウスを接続します。

⑩ ディスプレイコネクタ
ディスプレイを接続します。

⑪ ディップ スイッチ
色々な設定時に使用します。向かって左側から 1,2‥‥8、 上側 ON、下側 OFF となります。詳細は 7 ページの「ディップスイッチの設定」をご参照ください。

⑫ AC アダプタ用コネクタ [4ch のみ]
AC アダプタを接続します。CRT/KB 切替器(4ch)に添付されている AC アダプタ以外はご使用にならないでください。

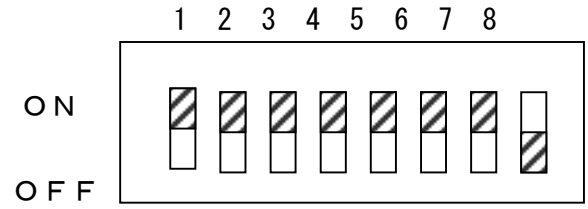
装置上面（8ch のみ）



CRT/KB 切替器（8ch）上面図

ディップスイッチ設定

出荷時のディップスイッチの設定は 8 のみ OFF となっております。



*注. ▨側が SW 位置を示す。

ディップスイッチ機能

SW No	機能	ON 状態 / OFF 状態
1	ホットキーモード <Ctrl>+<Alt>+<Shift>同時押下	ON:有効 / OFF:無効
2	ホットキーモード <Ctrl>連続２回押下	ON:有効 / OFF:無効
3	ホットキーモード <Scroll Lock>連続 2 回押下	ON:有効 / OFF:無効
4－７	キーボード設定	キーボード設定表による 接続するキーボードの種類を設定します。
8	本装置電源常時設定	ON:本装置は常に電源が入った状態となります OFF:いずれかのサーバ電源が入った時に本装置の電源が ON 状態となります

※ホットキーモードについては 14 ページの「サーバ選択」をご参照ください。

キーボード設定表

キーボード種類	SW4	SW5	SW6	SW7
日本語	ON	ON	ON	ON
US	ON	ON	ON	OFF
UK	ON	ON	OFF	ON
German	ON	ON	OFF	OFF
French	ON	OFF	ON	ON
Spanish	ON	OFF	ON	OFF
Swedish	ON	OFF	OFF	ON

Low Power の検出

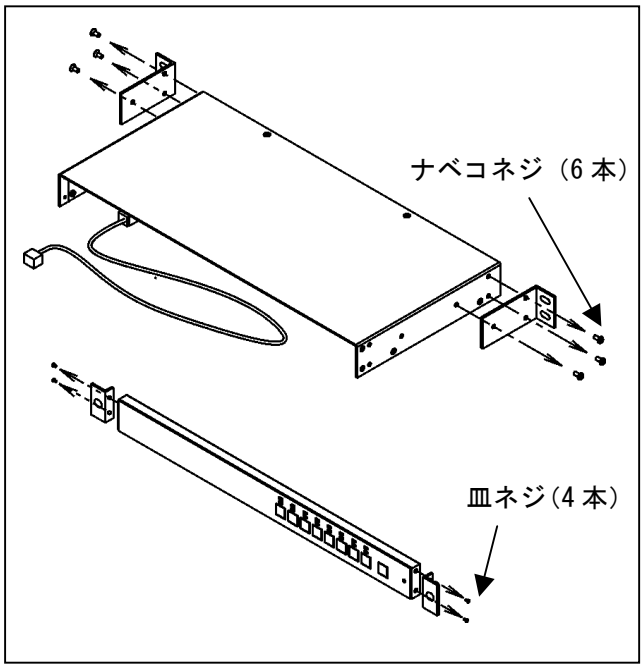
操作パネルの[POWER]LED（緑色）が点滅した場合は、本装置の電圧が低下している可能性があります。電源コード、AC アダプタなどが正しく接続されているか確認してください。
接続が正しい場合は、本装置、電源コード、AC アダプタの故障が疑われますのでお買い求めの販売店または弊社担当保守員に連絡してください。

設置

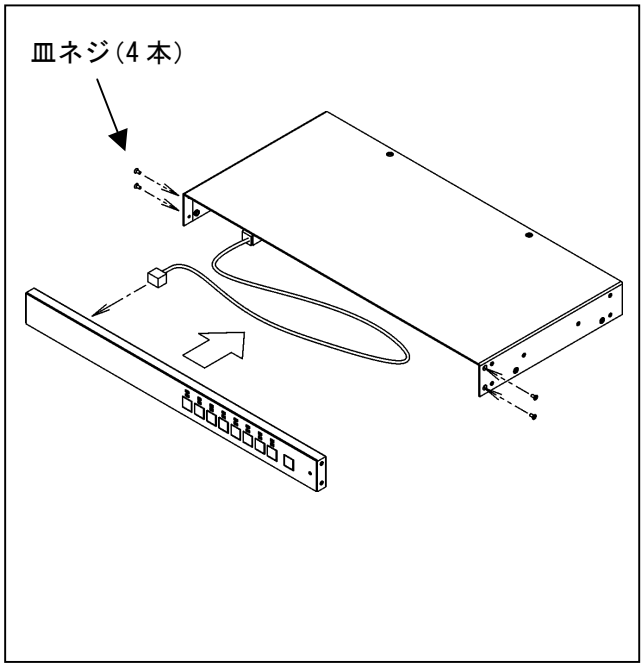
ＣＲＴ／ＫＢ切替器(4ch)は外付装置として設置できるだけでなく、ＰＲＩＭＥＲＧＹラック搭載用フラットディスプレイ（ＰＧ－Ｒ１ＤＰ２／Ｒ１ＤＰ３）へ搭載することができます。また、ラックマウント変換機構（ＰＧ－Ｒ１ＣＫ１３）を別手配することにより、ＰＲＩＭＥＲＧＹ用ラックのＣＲＴ／ＫＢ格納テーブルの横にある空きスペースに搭載することができます。
ＣＲＴ／ＫＢ切替器(8ch)は外付装置として設置できるだけでなく、ＰＲＩＭＥＲＧＹラックに搭載することができます。方法は通常設置領域（水平方向）への搭載に加え、スタンダードラックの場合は縦置設置領域（垂直方向）にも搭載することができます。設置前に 7 ページの「ディップスイッチの設定」を参照し設定を実施してください。

外付設置

(1) CRT/KB 切替器(4ch)の場合
本装置の底面に、同梱されているゴム足(4 個)を四隅に貼り付けし、ゴム足を下にして水平な場所に設置します。
(2) CRT/KB 切替器(8ch)の場合
2-1) 操作パネルからラック取り付け金具[小]を取り外します。（皿ネジ左右各 2 本 ）
ラック取り付け金具[小]は大切に保管してください。
2-2) 本体からラック取り付け金具[大]を取り外します。（ナベコネジ左右各 3 本）
ラック取り付け金具[大]とナベコネジ 6 本は大切に保管してください。
2-3) 本体の操作パネルケーブルを操作パネル接続後、接続パネルを本体に固定します。
固定する皿ネジは 2-1)で取り外した皿ネジ 4 本を使用します。
2-4) 底面に、同梱されているゴム足(4 個)を四隅に貼り付けし、ゴム足を下にして水平な場所に設置します。



ラック取り付け金具の取り外し図



操作パネルと本体の取り付け図

ラック搭載

(1) CRT/KB 切替器(4ch)のラック搭載方法

(1-A) フラットディスプレイ装置後面に CRT/KB 切替器（4ch）を搭載できます。
設置の詳細については「フラットディスプレイ装置添付の取扱説明書」をご参照ください。

(1-B) CRT/KB格納テーブルの横にある空きスペースへの搭載
別手配のラックマウント変換機構（PG-R1CK13）によりCRT/KB格納テーブルの横にある空きスペースにCRT/KB切替器（4ch）を設置できます。
設置の詳細については「ラックマウント変換機構添付の取扱説明書」をご参照ください。

(2) CRT/KB 切替器(8ch)のラック搭載方法

(2-A) 通常の設置領域への搭載

Point 操作パネル部をラック前面に、本体(コネクタ側)をラック後面に方向をあわせて取り付けます。

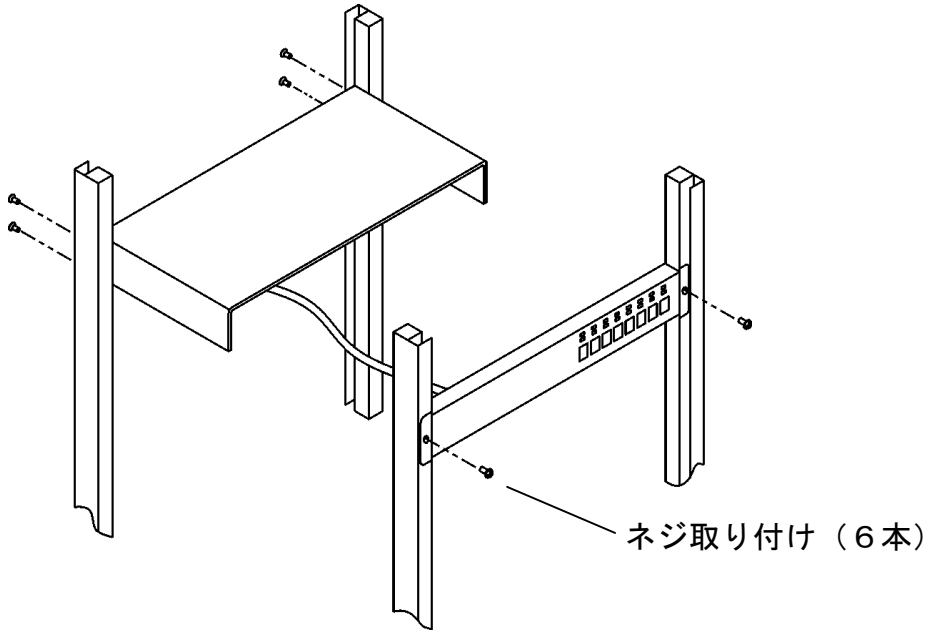
1）ラック側の準備

1-1）操作パネル及び本体を取り付けるラックの取り付け穴にラックナットを取り付ける。1Uの高さで3箇所の穴の内、前面中央1箇所、後面上下2箇所にラックナット（前左右各1箇所、後左右各2個で計6個）を取り付ける。

2）ラックへの取り付け

2-1）本体をラックの後面にラック取り付け用ネジ（左右各2本）で取り付ける。

2-2）操作パネルケーブルを操作パネルに接続後、ラックの前面にラック取り付け用ネジ（左右各１本）で取り付ける。



通常領域のラック搭載図

（2-B）縦置設置領域への搭載（スタンダードラックのみ）

Point 操作パネルと本体が一体の状態で操作パネル面をラック前面に方向を合わせ縦置設置領域に取り付けます。

１）CRT/KB切替器(8ch)側の準備

1-1）操作パネルからラック取り付け金具[小]を取り外します。（皿ネジ左右各 2 本 ）

1-2）本体からラック取り付け金具[大]と取り外します。（ナベコネジ左右各 3 本）

1-3）本体の操作パネルケーブルを操作パネル接続後、接続パネルを本体に固定します。固定する皿ネジは1-1)で取り外した皿ネジ４本を使用します。

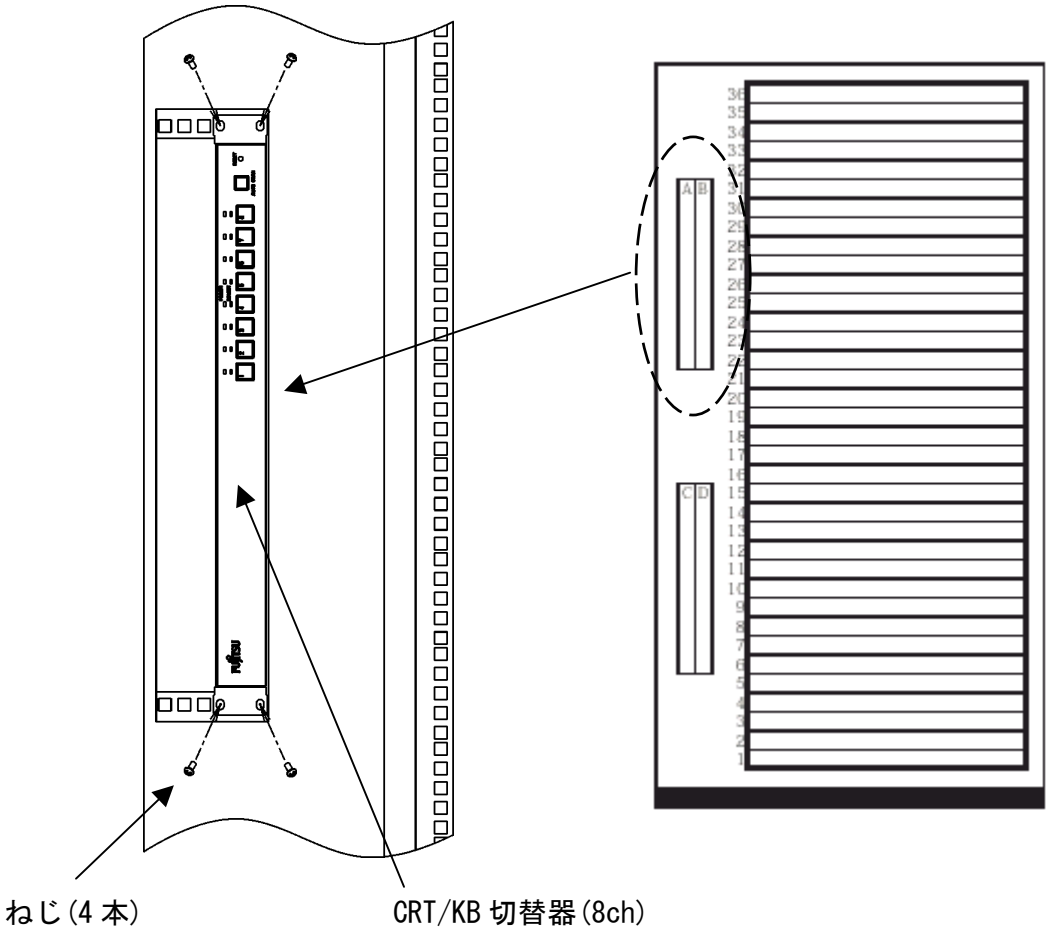
1-4）ラック取り付け金具［大］を本体の操作パネル側にナベコネジ（左右各3本）で固定します。
固定するナベコネジは1-2)で取り外したナベコネジ6本を使用します。

２）ラック側の準備

2-1）スタンダードラック前面にある縦置設置領域の上下の取り付け穴にラックナットを取り付ける。1Uの幅で3箇所の穴の内、両端の2箇所にラックナット（上下各2箇所で計4個）を取り付けます。

３）ラックへの取り付け

3-1）ラックの縦置設置領域に本体をラック前面から搭載し、ラック取り付け用ネジ（上下各2本）で取り付けます。

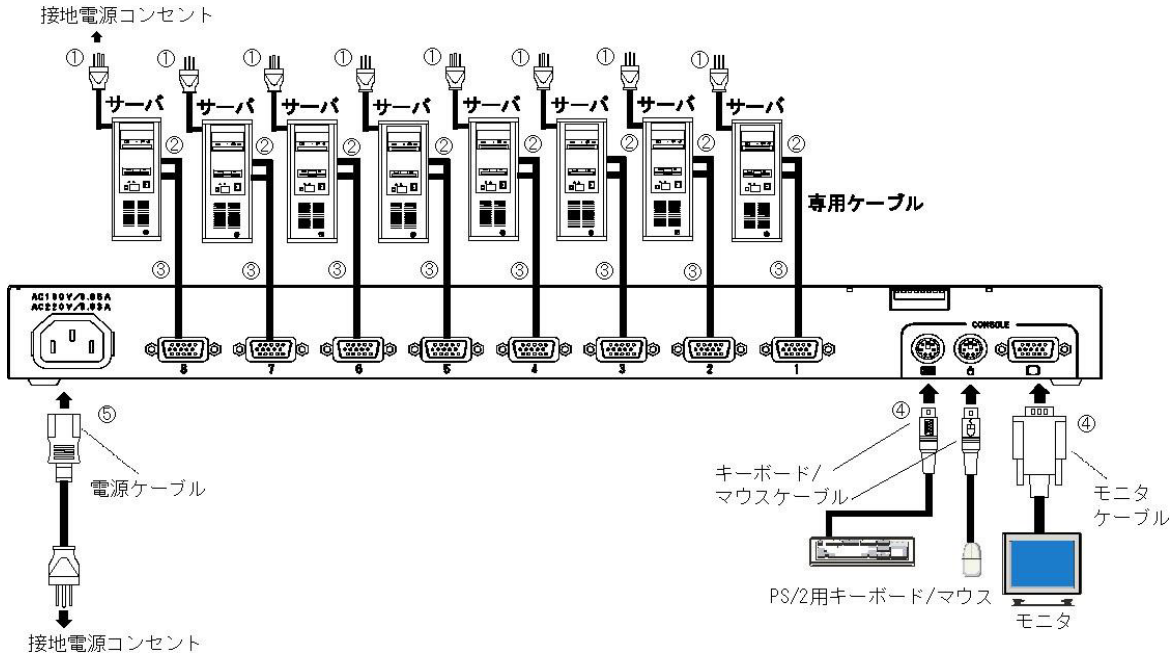


ケーブルの接続と取り外し

ケーブルの接続

CRT/KB 切替器(8ch)の例で説明しますが CRT/KB 切替器(4ch)も同様の手順で接続します。

１．カスケード接続しない場合（1 段接続）
　サーバが最大 8 台まで接続可能です。
　１） サーバの電源ケーブルをコンセントに接続します。（①を接続）ただし、サーバ電源は OFF のままにしてください。
　２）1 台目のサーバのキーボードコネクタ，マウスコネクタ及びディスプレイコネクタに別手配の CRT/KB ケーブル（PG-CBLDP02/03/04）を接続します。（②を接続）
　３）CRT/KB ケーブルの反対側のコネクタを本装置[1]のサーバ接続用ポートに接続します。（③を接続）
　４）2～8 台目も同じ手順で接続します。
　５） [CONSOLE] ポートにキーボード，マウス，ディスプレイを接続します。（④を接続）
　６）電源ケーブルを本装置に接続し、電源コンセントに接続します。（⑤を接続）
　　※4ch の場合は、AC アダプタを本装置に接続し、電源コンセントに接続します。



図：本機 1 台使用接続例

２．カスケード接続する場合（2 段接続）

本装置をカスケード接続（最大構成：マスタ 1 台、スレーブ 8 台）することにより、最大 64 台のホストが接続できます。

１）「１．カスケード接続しない場合の 1)～4)」と同様の手順で 2 段目（スレーブ）のサーバ接続用ポートに 1～8 台のサーバを接続します。（①を接続）

２）に 1 段目（マスタ）のサーバ接続用ポートと 2 段目（スレーブ）の［CONSOLE］ポートを別手配の CRT/KB ケーブル［PG-CBLDP02］で接続します。（②を接続）

注意：マスタとスレーブは、CRT/KB ケーブル［PG-CBLDP02］で接続する必要があります。

３）さらにスレーブを増設する場合は、１）、２）と同様の手順で接続してください。

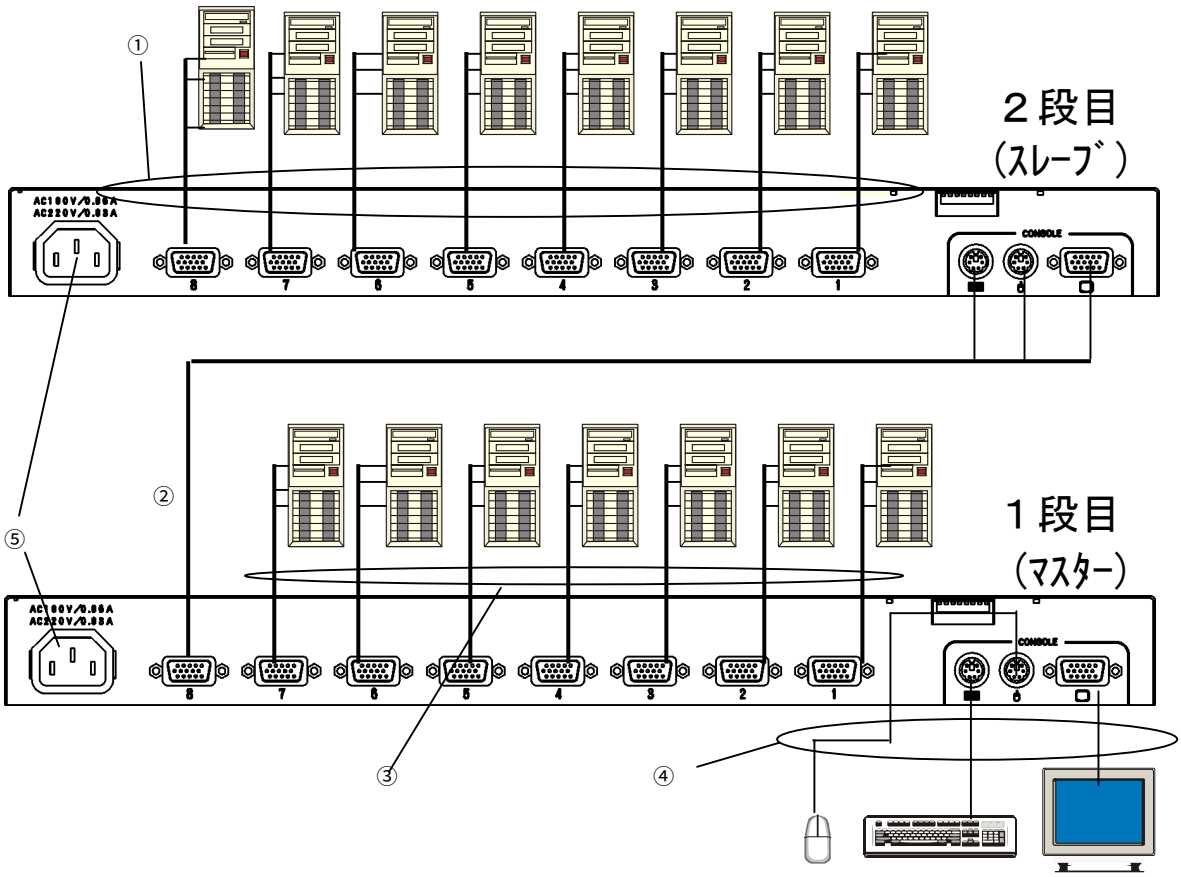
注意：3 段接続はできません。

４）１）と同様の手順で 1 段目（マスタ）の残りサーバ接続用ポートにサーバを接続します。（③を接続）

５）1 段目（マスタ）の［CONSOLE］ポートにキーボード，マウス及びディスプレイを接続します。（④を接続）

６）電源ケーブルを本装置に接続し、電源コンセントに接続します。（⑤を接続）

※4ch の場合は、AC アダプタを本装置に接続し、電源コンセントに接続します。



ケーブルの取り外し

影響を受ける装置すべての電源プラグを電源コンセントから抜いた後で各ケーブルを取り外してください。

操作方法

プラグアンドプレイデータの取得

本装置に初めてディスプレイを接続した時は、プラグアンドプレイデータ(EDID データ)を設定する必要があります。EDID データ設定後、サーバを再起動することで接続されたディスプレイに適した環境で使用することができます。また、設定した EDID データはすべてのポートでエミュレーションされるため、選択していないポートのサーバを起動した場合にも接続されたディスプレイに適した環境で使用できます。

EDID データの設定手順

注意:EDID データを設定するためにはディスプレイの電源が ON となっていることが必要です。

1）<Ctrl>+<Alt>+<Shift>を同時押下または<Scroll Lock>を 2 回連続押下してホットキーモードに入ります。

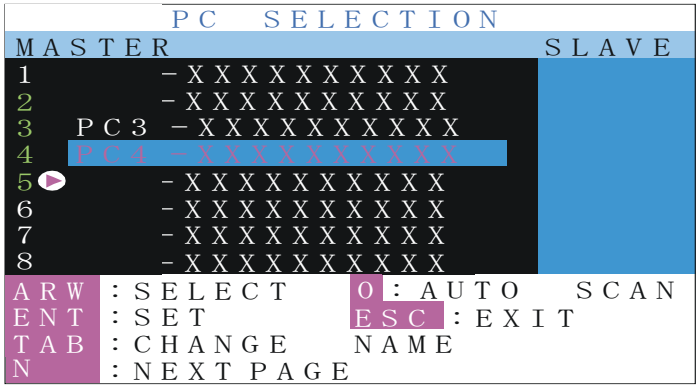
2）<N>を押下し、カスタマーモードに入ります。

3）<ENTER>を押下すると文字背景が紫色になり、[CONSOLE] ポートに接続されたディスプレイから EDID データを読み取り本装置に設定されます。

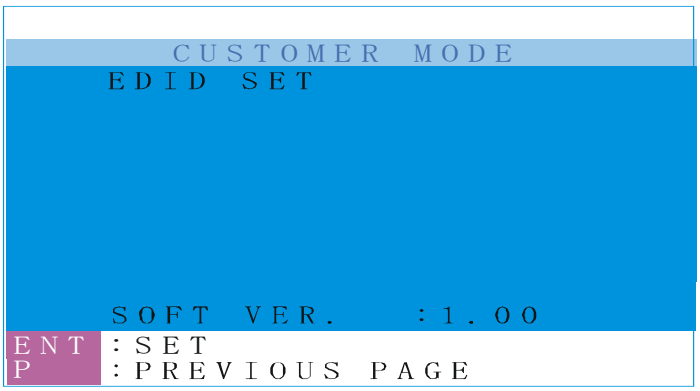
注意：EDID データが正しく設定された場合は PNP MONITOR と表示します。ディスプレイがプラグアンドプレイモニタでない場合、ディスプレイの電源が OFF の場合、及びディスプレイが正しく接続されていない場合は、ディスプレイから EDID データを読み取ることができず、DEFAULT MONITOR として本装置に設定されます。

4）<P>を押下し、サーバ選択画面に戻ります。

5）<ESC>を押下しホットキーモードを終了し、通常画面に戻ります。



Nキー押下 ↓　　Pキー押下 ↑



サーバの選択

各サーバの選択方法は、［SELECT］スイッチによる選択とキーボードによる選択（ホットキーモード）の２種類あります。
選択中のサーバ電源をOFFした場合はその状態が保持されますが、すべてのサーバ電源をOFFした場合は、本装置の電源がOFFになるため最初に電源投入したサーバが選択されます。また、サーバ未接続のポートやサーバ電源OFFのポートも選択可能ですが何も表示されません。

(A) ［SELECT］スイッチによる選択（ノーマルモード）

選択したいサーバが接続されているポート番号の［SELECT］スイッチを押下すると、そのポートが選択され［SELECT］LEDが点灯します。

＊注. 誤動作の原因となることがありますので［SELECT］スイッチを2個以上同時に押下しないでください。

カスケード接続されている場合は、マスタ側でスレーブが接続されているポート番号の［SELECT］スイッチを押下し、スレーブ側で選択したサーバが接続されているポート番号の［SELECT］スイッチを押下します。

［Auto Scan］スイッチを押下すると［SELECT］LEDが遅い点滅に変わり、サーバ電源がONになっているポートを一定の周期(初期値は10秒)で自動的に切り替えることができます。切り替えの周期は3/5/10/20/40/60秒の範囲で選択でき、<↑>押下で速くなり、<↓>押下で遅くなります。なお、オートスキャン中はサーバのキー入力、マウス操作をすることができないため、ホットキーモードに移行する場合はオートスキャンを終了してからホットキーモードへ移行するキー入力を行ってください。

オートスキャンは次の方法にて終了します。

［Auto Scan］スイッチ押下または<Enter>押下：現在表示している画面を選択します。
＜ESC＞押下：オートスキャンを開始した時の画面に戻ります。

(B) キーボードによる選択（ホットキーモード）

※ CRT/KB切替器(8ch)の例で説明しますがCRT/KB切替器（4ch）も同様な操作でサーバを切り替えることができます。

ホットキーモードは次の3つの方法で移行しますが、画面表示、操作方法は１），２）によるホットキーモード1と3）によるホットキーモード2の2種類あります。

１）<Ctrl>+<Alt>+<Shift>を同時押下（1回）
２）<Scroll Lock>連続2回押下（素早く連続押下して下さい。）
３）<Ctrl>連続2回押下（素早く連続押下して下さい。）

ホットキーモードの詳細は次ページの「B-1 ホットキーモード1」及びｘｘページの「B-2 ホットキーモード2」をご参照ください。

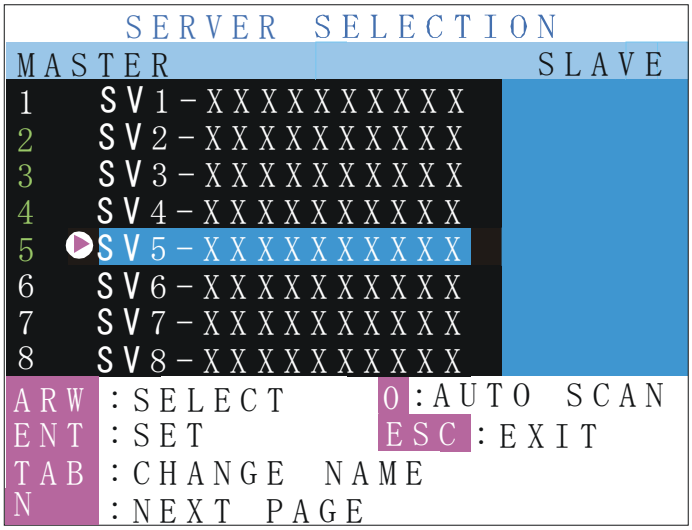
ホットキーモードに入ると、画面上にOSD(On Screen Display)の画面が表示され、OSD表示を見ながら、ポートの選択ができます。

ホットキーモード中はマスタ側（1段目）の［SELECT］LEDが点灯から速い点滅に変わりますが、スレーブ側（2段目）のSELECT LEDは点灯のままとなります。

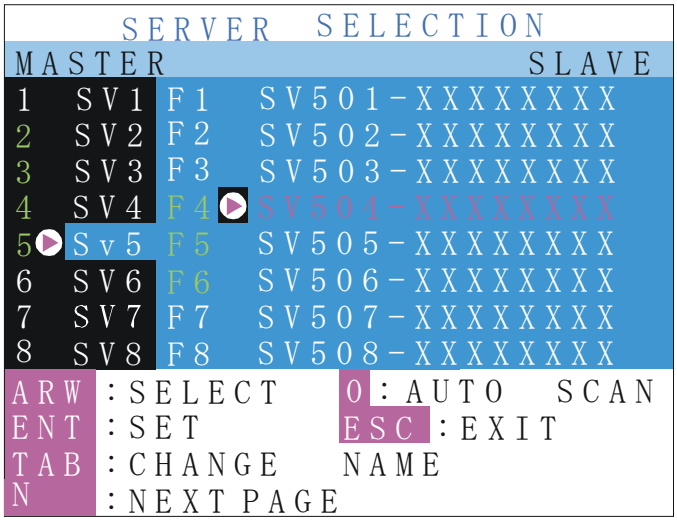
＊注：ホットキーモード中は、［SELECT］スイッチ，［Auto Scan］スイッチは無効になります。

B-1 ホットキーモード１

<Ctrl>+<Alt>+<Shift>同時押下または<Scroll Lock>連続 2 回押下を実施すると次の OSD 画面表示となります。



カスケード接続していないポート選択時



カスケード接続しているポート選択時

CRT/KB 切替器(8ch)の OSD 画面表示例（実際の画面と異なる場合があります。）

a) 画面の説明

・画面中央の左側（背景色＝黒の部分）にマスタ側（1 段目）の状態が表示されます。

・画面中央の右側（背景色＝青の部分）にはスレーブ側（2 段目）の状態が表示されます。

・ ▶ は現在選択されているポートを示し、紫色に表示されている文字列は<←>, <→>で選択可能なサーバを示します。

・画面下部にはキー操作の簡単な説明が表示されます。

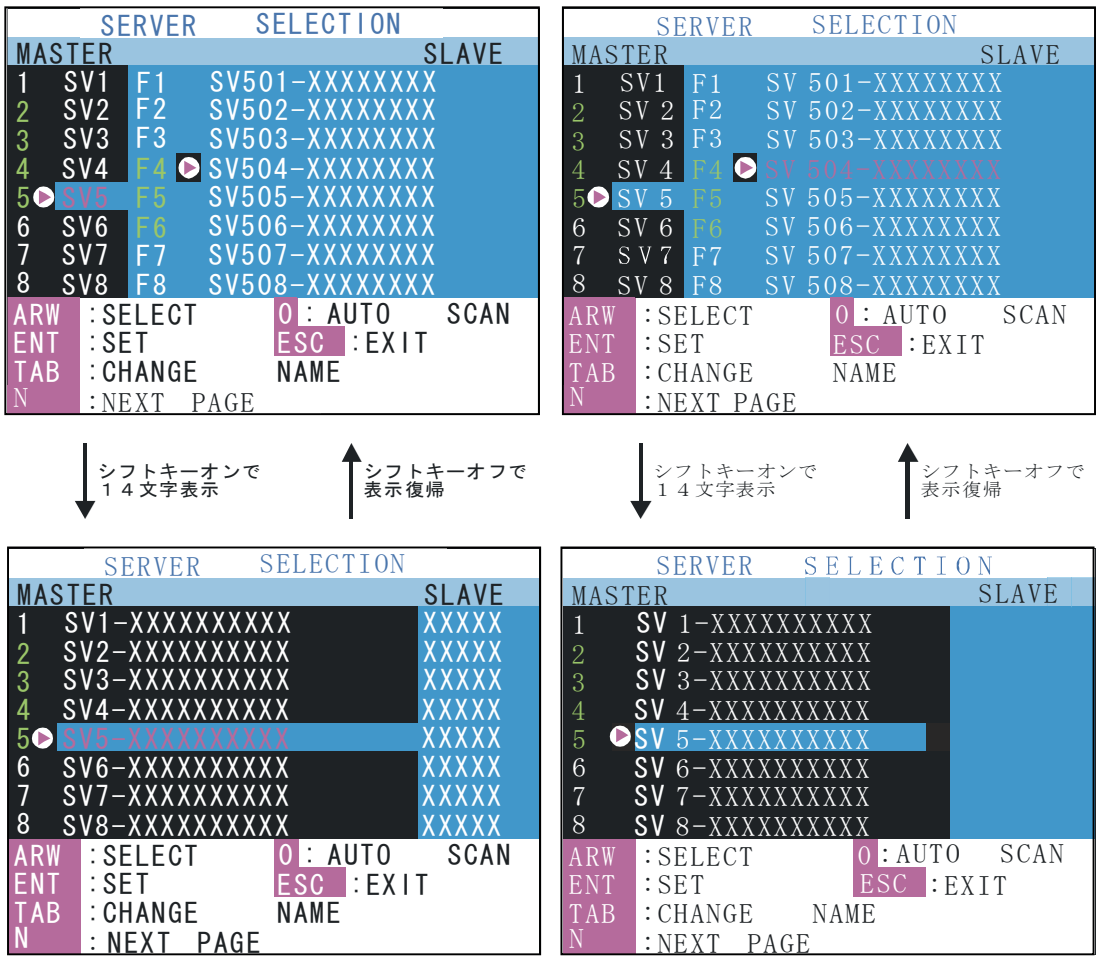
・［1～8, F1～F8］の表示で緑色になっているポートはサーバの電源が ON 状態であることを示します。

・カスケード接続していないポートを選択した場合には、マスタ側にサーバ名が 14 文字表示され、スレーブ側には何も表示されません。

・カスケード接続しているポートを選択した場合には、マスタ側にサーバ名が 3 文字表示され、スレーブ側に 14 文字のサーバ名が表示されます。

－マスタ側のポートを選択している時に、<Shift>を押下するとマスタ側に 14 文字のサーバ名が表示され、スレーブ側のサーバ名が 5 文字表示になります。<Shift>を離すと元に戻ります。

－スレーブ側のポートを選択している時に、<Shift>を押下するとマスタ側のサーバ名表示が 3 文字から 14 文字に変わり、スレーブ側のサーバ名は表示されません。<Shift>を離すと元に戻ります。



マスタ側のポートを選択した時(左側)とスレーブ側のポート選択時(右側)の表示例

b) OSD 画面でのサーバ切り替え方法

b-1) カーソルキーによる選択

・<↑><↓><←><→>を使用して ▶ を上下左右に移動させ、ポートを選択します。

・<ENTER>を押下すると選択を確定し、ホットキーモード１を終了します。切り替え後は画面左上に約 3 秒間サーバ名を表示します。

・<ESC>を押下すると選択をキャンセルし、ホットキーモードを終了します。画面はホットキーモード 1 開始画面に戻ります。

b-2) 数字キー／ファンクションキーによる直接選択

・マスタ側は<1>～<8>が各ポート番号に対応し、スレーブ側は<F1>～<F8>が各ポート番号に対応します。

・<1>～<8>のいずれかを押下し、マスタ側のポートを選択します。

・<F1>～<F8>のいずれかを押下し、スレーブ側のポートを選択します。

※ カスケード接続されていないポートを選択した時点で確定しホットキーモードを終了します。カスケード接続されているポートを選択した場合は確定せず、スレーブ側のポート選択入力を待ちます。

（例１：マスタのポート１にスレーブが接続されていない場合、<1>押下時点で確定する。

例２：マスタのポート１にスレーブが接続されている場合、<1>押下時点では確定せず、<F1>～<F8>のいずれかを押下した時点で確定となる。）

b-3) Auto Scan モード

<0>を押下すると［SELECT］LED が遅い点滅に変わり、サーバ電源が ON になっているポートを一定の周期(初期値は 10 秒)で自動的に切り替えることができます。切り替えの周期は 3/5/10/20/40/60 秒の範囲で選択でき、<↑>押下で速くなり、<↓>押下で遅くなります。なお、オートスキャン中はサーバのキー入力、マウス操作をすることができません。

［Auto Scan］スイッチ押下または<Enter>押下により、現在表示している画面を選択し、オートスキャンを終了します。

＜ESC＞押下により、オートスキャンを開始した時の画面に戻り、オートスキャンを終了します。

C) サーバ名の登録・変更

(1) カーソルキーでサーバ名を登録・変更したいポートに ▶ を移動させます。

(2) <Tab>を押下します。

(3) 文字列が黄色になり、最初の１文字が黄色の背景となります。

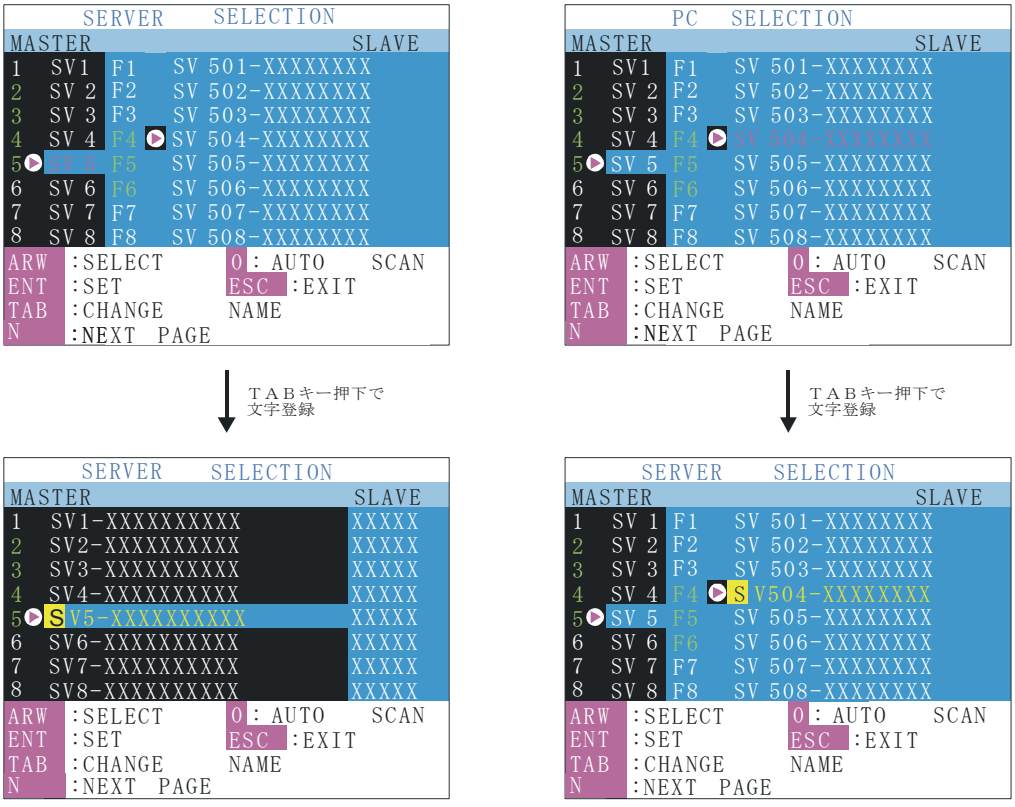
(4) キーボードでサーバ名を入力して、<Enter>を押下すると登録・変更されます。

・<Del>で１文字削除、<BS>で後退します。<ESC>を押下すると、入力がキャンセルされ、登録・変更前の画面に戻ります。

・サーバ名の登録文字数は最大１４文字です。

・登録できる文字は ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ1234567890,./[]:+×-及びスペースの 46 文字です。

※［SELECT]スイッチの［１］，［３］を押下しながら、［RESET］スイッチを押下するとサーバ名を初期値にリセットすることができます。一度、サーバ名を初期値にリセットすると完全に消去され、元に戻すことはできません。



マスタ側登録名称変更例　　スレーブ側登録名称変更例

(本装置単体の時も同様、但し青色部分未表示)

Point 23 ページのサーバ名称記録シートをご使用になられると便利です。

B-2 ホットキーモード 2

<Ctrl>連続２回押下を実施すると画面左上にサーバ名が OSD 表示されます。

a) 画面の説明

画面左上にサーバ名が OSD 表示されます。
切り替える前は、文字の背景が赤色で表示されます。
切り替えた後は、文字の背景が青色になり、サーバ名を約 3 秒間表示します。

b) サーバ切り替え方法

・マスタ側は<1>～<8>が各ポート番号に対応し、スレーブ側は<F1>～<F8>が各ポート番号に対応します。
・文字の背景が赤色で表示されている時に<1>～<8>のいずれかを押下し、マスタ側のポートを選択します。
・文字の背景が赤色で表示されている時に<F1>～<F8>のいずれかを押下し、スレーブ側のポートを選択します。

※ カスケード接続されていないポートを選択した時点で確定しホットキーモード 2 を終了します。カスケード接続されているポートを選択した場合は確定せず、スレーブ側のポート選択入力を待ちます。

（例 1：マスタのポート 1 にスレーブが接続されていない場合、<1>押下時点で確定する。
例 2：マスタのポート 1 にスレーブが接続されている場合、<1>押下時点では確定せず、<F1>～<F8>のいずれかを押下した時点で確定となる。）

注意：文字の背景が赤色で表示されている時は、サーバのキー入力、マウス操作はできません。

・ホットキーモード 2 を終了したい場合は、<Enter>を押下するか<ESC>を押下します。

c) Auto Scan モード

<0>を押下すると [SELECT] LED が遅い点滅に変わり、サーバ電源が ON になっているポートを一定の周期(初期値は 10 秒)で自動的に切り替えることができます。切り替えの周期は 3/5/10/20/40/60 秒の範囲で選択でき、<↑>押下で速くなり、<↓>押下で遅くなります。なお、オートスキャン中はサーバのキー入力、マウス操作をすることができません。

[Auto Scan] スイッチ押下または<Enter>押下により、現在表示している画面を選択し、オートスキャンを終了します。

＜ESC＞押下により、オートスキャンを開始した時の画面に戻り、オートスキャンを終了します。

d)サーバ名の常時 OSD 表示

<Shift>を押下しながら<Scroll Lock>を連続 2 回押下により、選択しているポートのサーバ名を画面左上に常時 OSD 表示することができます。本装置の初期状態は非表示状態です。
サーバ名を常時 OSD 表示中に同操作を行うと非表示になります。
常時表示／非表示の設定は、OSD 及びセレクトスイッチでの切り替えを行った後もそのまま残ります。

注意：ホットキーモード 1 及びオートスキャン中にはサーバ名は表示されません。ホットキーモード 1 で<Shift>を押下しながら<Scroll Lock>を連続 2 回押してもサーバ名の常時 OSD 表示の設定を変更することはできません。

仕　様

項　目		仕　様	
名称［型名］		CRT/KB 切替器(4ch) [PG-SB104]	CRT/KB 切替器(8ch) [PG-SB105]
接続台数 (カスケード接続時)		最大 4 (最大 32)	最大 8 (最大 64)
選択方式		[SELECT] スイッチ or キーボード（ホットキーモード）	
LED 表示	POWER(橙色)	4	8
	SELECT(緑色)	4	8
[CONSOLE] ポート	キーボード	PS/2, Mini DIN 6Pin メス ×1 (紫色)	
	マウス	PS/2, Mini DIN 6Pin メス ×1 (緑色)	
	ディスプレイ	Mini D-SUB 15Pin メス ×1　(青色)	
サーバ接続用ポート		Mini D-SUB 15Pin メス×4 (黒色)	Mini D-SUB 15Pin メス×8 (黒色)
ホットキーモード		マニュアル／オートスキャンモード	
オートスキャン周期		3/5/10(初期値)/20/40/60 秒	
最大解像度, リフレッシュレート		1600 x 1200(最大)、75Hz	
モニタープラグ&プレイ機能		VESA DDC2 対応	
電　源		AC アダプタ(AC100V) DC+5V±5%	AC100V
消費電流(AC100V)		最大 0.05A	最大 0.26A
キーボード/マウスへの 供給可能電流		最大 150mA	
環境条件		使用時　15～35℃ （結露しないこと） サーバ使用条件に準ずる	
保存温度		-20～60℃	
外形寸法　(W×D×H) 単位 mm		195×104×40 H にゴム足 3mm 含まず	437×210×42 H にゴム足 3mm 含まず
質量		0.7Kg	2.8kg
オプション［別手配］		・本装置共通 CRT/KB ケーブル [PG-CBLDP02] (1.8m) CRT/KB ケーブル [PG-CBLDP03] (3m) CRT/KB ケーブル [PG-CBLDP04] (5m) ・CRT/KB 切替器(4ch)のみ ラックマウント変換機構 [PG-R1CK13]	

トラブルシューティング

症　状	原　因	対　策
[POWER] LED が点滅した	電源コードがコンセントまたは本装置からはずれた	電源コードを接続する
	AC 電源を OFF した	AC 電源を ON する
	内部電源ヒューズが断線した	お買い求めの販売店または弊社担当保守員に連絡してください
キーボード、マウスの動作がおかしい／動作しない	キーボード、マウスが逆接続	サーバ及び本装置を正しく接続する
	ホットキーモードが解除されていない	<Enter>か<Esc>を押す
	キーリピートがおかしい	サーバのキーリピートのスピード設定を変更する
	接続／ケーブル不良	コネクタの接続を確認する 別ケーブルと交換し、問題が解決したら、良品ケーブルに交換し、不良ケーブルは廃却する
	未サポートのキーボード、マウスを接続	サポートされているキーボード、マウスに交換する
スクロール機能及びボタンが動作しない	未サポートのマウスを使用した	サポートされているキーボード、マウスに交換する
	専用ドライバをインストールしてない	専用ドライバをインストールする
画質が劣化する （ゴーストや文字のニジミ等）	接続／ケーブル不良	コネクタの接続を確認する 別ケーブルと交換し、問題が解決したら、良品ケーブルに交換し、不良ケーブルは廃棄する
切り替えると画面がずれたり、表示できなかったりする	解像度が違う	解像度を合わせるか、モニタ側で調整する
	モニタ未対応／同期が取れない	サポートされているモニタを接続する モニタ側で調整する
オートスキャンモードにならない	ホットキーモードになっていない	ホットキーモードに入り、<0>を押す
	キーが間違っている	<0>を押す
ホットキーモードで切り替えできない	キーが間違っている	1 段目（マスタ）は<1>～<8>を押す 2 段目（スレーブ）は<F1>～<F8>を押す
オートスキャンの切り替え周期がおかしい	切り替え周期が調整されていない （初期値 10 秒）	<↑>及び<↓>で調整する
今まで動いていたのに	接続が外れた	接続を確認し、再起動する

突然動かなくなった	本装置がハングアップした	リセットスイッチを押す
	サーバに不具合が発生した	サーバの不具合を直す
サーバを ON しても本機の LED が点灯しない	サーバのキーボード/マウスポートの電源回路用保護素子が破損した	サーバの不具合を直す
	接続が外れた	サーバの電源 OFF にしてから正しく接続し、電源を投入する
カスケードを認識しない	本装置に不具合が発生した	マスタ、スレーブ両方のリセットスイッチを押す

付録. サーバ名称記録シート

本装置に設定したサーバ名称の控えを記録しておきます。

Master Unit	
NO.	NAME
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	

Console	
Item	Model Name
Monitor	
Keyboard	
Mouse	

Slave Unit Port.1	
NO.	NAME
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	

Slave Unit Port.2	
NO.	NAME
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	

Slave Unit Port.3	
NO.	NAME
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	

Slave Unit Port.4	
NO.	NAME
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	

Slave Unit Port.5	
NO.	NAME
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	

Slave Unit Port.6	
NO.	NAME
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	

Slave Unit Port.7	
NO.	NAME
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	

Slave Unit Port.8	
NO.	NAME
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	

ＣＲＴ／ＫＢ切替器（４ｃｈ） [PG-SB104]
ＣＲＴ／ＫＢ切替器（８ｃｈ） [PG-SB105]

取扱説明書

発行日　　2003 年 6 月
発行責任者　富士通株式会社

Printed in Japan

● 本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
● 本書に記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
● 無断転載を禁じます。